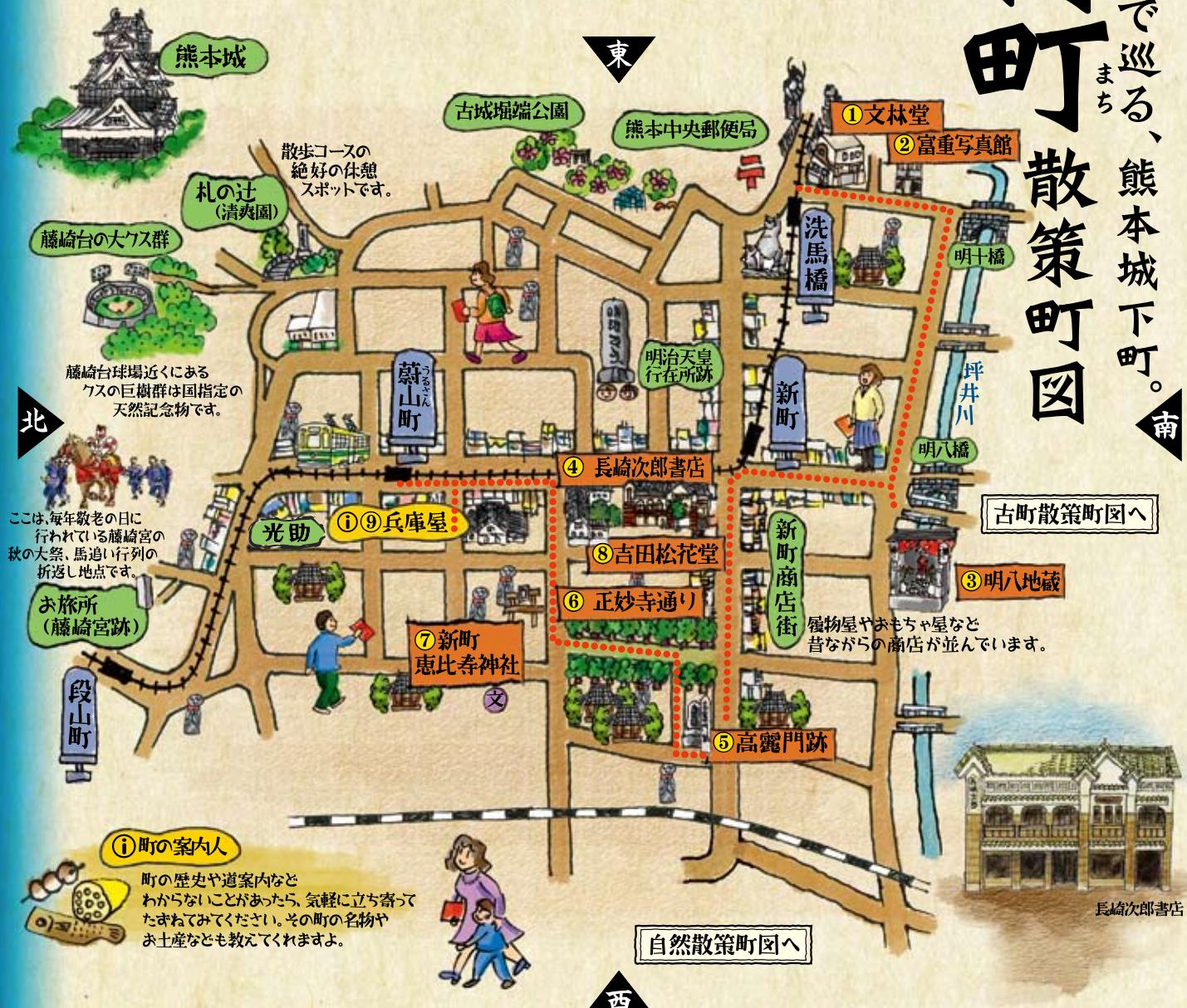




新町 散策町図

市電で巡る、熊本城下町。

モデルコース
○所要時間約50分





腕自慢の職人と商人が集つた城下町。

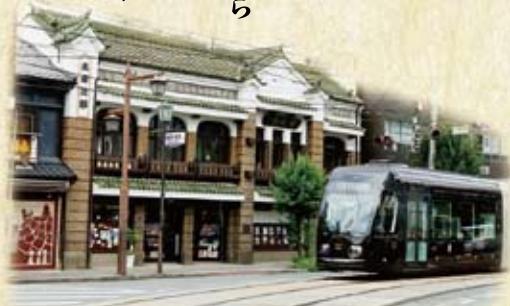
新町

しん
まち

加藤清正がつくった町人町。

地元熊本だけではなく、大阪や名古屋から清正を慕つてやってきた商人や職人を定住させたと言われています。

明治になつてからは、郵便役所が置かれ、写真屋や活版印刷屋など新しい商売がここ新町からはじまっています。この地域は空襲による被害が少なかつたことから、昔ながらの町屋のたたずまいが残っています。



©COLORS PLANNING

◆交通の起点であつた新町。

商工の町として栄えた新町は、交通、通信の中心的場所でした。肥後の四街道(豊前、豊後、薩摩、日向)は現在YMC Aがある角の広場にあつた札の辻を起点として、何里の距離があるのか測られていました。一里木、二里木という地名は、この場所からの距離を示した名残なのです。

◆肥後手まり唄「あんたがたどこさ」の狸。

♪あんたがたどこさ 肥後さ 肥後どいさ♪
のフレーズで親しまれている肥後手まり唄。この唄の中にある「せんば山」は熊本城から船場橋、明十橋あたりまでの川沿いにあつた土手のこと。この地域には、「狸がいた！」という話が数え切れないと残つているとか。



1 文林堂 Bunrindo

【景観形成建造物に指定】

明治から営業をする老舗の文具店。それ以前は、細川藩御用の染め物職人であつたとか。店の電車通りに面した部分は昔の建物から型をとつて忠実に再現したもので、腰折れ屋根と壁面のデザインがなんとも美しい。

2 富重写真館 Tomishigeestashinkan



3 明八地蔵 Meihachijizo

新町には、町内の人々の手により今でも大切に守られているお地蔵さんが町角にたくさんあります。

毎年7月24日には、地蔵まつりが開かれています。



(問) 096-355-0274

明治から現在まで、熊本の変遷を記録してきた写真館。創業当時からの貴重な写真や機材が今でも残っています。店先には、日露戦争の名将と言われる乃木希典の写真が飾られています。



電停／洗馬橋 でんてい／せんばばし

名前の由来は、この場所に江戸時代坪井川水運の船着き場があつたことから。電停は「洗馬橋」、近くにある橋は「船場橋」と表記します。狸の銅像が目印。





江戸時代は、細川藩御用指物師を経て道具屋。明治7年に書店として創業。軍医だった頃に視察の際に立ち寄ったといわれています。建物正面にある木看板は、江戸中期の書家、北嶋雪山によるものです。



問) ☎ 096-352-0021

和洋中を折衷したような現在の建物は、大正13年に建てられました。昭和50年に火災で半焼し、老朽化が激しかったため、平成2年に補強、改装されています。

明治・大正の文人にも親しまれ、森鷗外も小倉の戸中期の書家、北嶋雪山によるものです。

加藤清正が花岡山方面から敵を防ぐためにつづいた門のひとつ。朝鮮の高麗門にならって熊本城の通門として建てられ、現在は石碑が建っています。その近くにある正妙寺通りは、アオギリの並木が続き、散策するのにとっても気持ちいい通りです。

4 長崎次郎書店 Nagasaki Kichirohoen

[景観形成建造物に指定] [国登録文化財に登録]



ができます。

100年以上続く味噌醤油醸造元。伝統的な手法でつくられる味噌・醤油は独自のまろやかさとコクがあるそうです。また、1階のギャラリーは、自由に見学



問) ☎ 096-352-0280

【景観形成建造物に指定】
8 吉田松花堂
Yoshida Shokado

9 兵庫屋
Hyogo-ya

札の辻(清翠園)
Fudanotsuji (Seisai-en)

明治・大正の文人にも親しまれ、森鷗外も小倉の戸中期の書家、北嶋雪山によるものです。

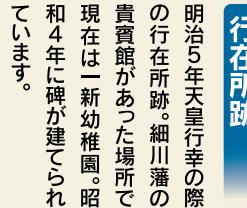


5 高麗門跡 Kourainomata

6 正妙寺通り Shomyoji tori

7 新町恵比寿神社 Shinmachi Ebisu-jinja

民家とマンショングリーンの間に、ひつそりと建っている恵比寿神社。細い参道の横には、休憩できるベンチがあります。



明治5年天皇行幸の際の行在所跡。細川藩の貴賓館があつた場所で、現在は一新幼稚園。昭和4年に碑が建てられています。

肥後藩の制令を掲示する大掲示台があり、札が並べかけられています。この辺りに熊本城の正面入口にあった門がありました。



明治5年天皇行幸の際の行在所跡。細川藩の貴賓館があつた場所で、現在は一新幼稚園。昭和4年に碑が建てられています。

